



羊蹄山と牧場の牛

15時23分、函館まで153km地点通過。15時57分、倶知安比羅夫に到達。比羅夫駅の案内板を見つけて、比羅夫駅まで実に遠かった。比羅夫駅（16時30分）は谷底にあった。



比羅夫駅

薪が強く印象に残る。大河ドラマ独眼竜政宗の箱根底倉のシーンを思い出した。この駅には、民宿施設があった。半年位前、テレビ放映の場面を思い出した。20分位急な坂道を上る。国道5号線に16時56分戻る。17時1分、羊蹄山登山口前を通過。その先で道路標識は、札幌104km、小樽66km、倶知安市街6kmとあった。



蝶 ツルハドラッグ

17時8分。登山橋辺りで、道端に落ちた黒い羽根の蝶と対面する。葉っぱにとまらせてあげる。クロネコヤマト、倶知安自動車学校、ヤマダ電機などの企業前を通る。18時6分、

倶知安町倶知安を通過。その先に万歩計で 424 歩ある倶知安橋(尻別川)を渡る。18 時 22 分、ツルハドラッグ (倶知安南店) に立ち寄る。倶知安駅には 18 時 52 分到着。ホテルに帰り、昨日同様、ラーメンなかまで夕食とする。本日の営業キロは 29.9 k m、万歩計で 66,216 歩だった。



倶知安駅

第 6 節 5 日目 : 6 月 19 日 (日) 晴れ / 曇り

3 時 20 分、起床し、本日の作戦を練る。本日はビジネス駅前ホテルをチェックアウトするため、リュックの整理に時間を要す。加えて、黒松内駅から乗り継いで長万部駅にあるホテルエクセルインに向かわなければならず、今回のシリーズ唯一到着時間に神経質になる。黒松内駅には、少なくとも 18 時には到着し、18 時 12 分発の長万部行の列車に乗りたいため。次の列車は、19 時 32 分までない。倶知安から長万部までのダイヤは一日 5 便。倶知安 6 時 24 分の列車で蘭越 (7 時 1 分着) に向かう。幸い天気なのでホットする。5 時 41 分、ホテルをチェックアウト。ホテル近郊や倶知安駅構内をデジカメに収める。構内には札幌までの日帰りダイヤがあった。始発電車として、6 時 20 分の苫小牧行きが小樽や札幌経由であった。昨日踏破した沿線を点検しながら車中を楽しむ。



ホテル

蘭越駅前をデジカメに再度収め。営業キロ 7.6 k m 先の目名駅を 7 時 2 分から目指す。少

し遠回りした進路を進む。7時6分、三井生命蘭越営業所前を通過。7時11分、道路標識
蘭越駅前をデジカメに再度収め、営業キロ7.6km先の目名駅を7時2分から目指す。少
し遠回りした進路を進む。7時6分、三井生命蘭越営業所前を通過。7時11分、道路標識
で黒松内方面に進んでいることを確認する。その先に大谷という地名があった。



蘭越駅

7時38分函館まで150km地点に到達、辺りは水田やビニールハウスが広がっていた。“らんこし米”の看板もあった。83歳の山本さんという方に7時50分頃お会いする。自転車を降りて、「どこから来たのですか。どこまで歩くのですか」の質問を受ける。名刺を手渡し、私のウォーキング道を語る。「アルバイトで仕事現場に向かっている」とのことであった。「目名駅はややこしいので、気をつけて踏破しなさい」とアドバイスを頂き、8時頃仕事現場でお別れする。8時8分、函館148km、長万部41km、黒松内28kmの道路標識前を通過。8時20分、雁皮岱（がんにたい）橋通過。それにしても、北海道はユニークな地名が多い。



らんこし米

8時29分、函館まで129km地点通過。8時35分、逆川橋で昨日の万歩計を0クリアしていないのに気付く。その先に落合橋あり。8時42分、2km先に道の駅“らんこし・ふるさとの館”まで145km地点に到達する。9時11分、道の駅に到達。9時19分、国道5号線に目名駅へ（1.2km先）の案内板を見つけ安堵する。9時30分、相生第2踏切を横切り、鉄道の右側となる。こげ茶色の駅舎をもつ目名駅に9時33分到着。駅舎に入り観察する。

駅舎内は山小屋風であった。再び、9時43分、踏切を横切り鉄道の左側となる。10時2分、国道に戻る。10時10分、讃岐という地名あり。106歩ある下賀老橋を渡る。10時25分、赤い鳥居前通過。10時28分、古めかしい小屋の前を通過。10時38分、蘭越町田下に到着。10時41分、92歩ある第1目名川橋通過。この橋は、あか錆で一部腐りかけていた。10時48分、函館140km、長万部33km、黒松内20km地点を通過する。10時59分、53歩ある第2目名川橋通過。風冷たし。11時5分、上目名を通過。11時11分、函館まで139km地点に到達。いつの間にか山間の空間となる。11時40分、黒松内新道6km地点に到達。この辺りが山間の峠であった。11時48分、北海道電力のタワー前を通過。辺りには平原が広がっていた。



相生第2踏切 目名駅



目名駅駅舎内 古めかしい小屋

12時1分、蘭越町から黒松内町に入る。その先に、函館136km、八雲60km、長万部29kmとあった。12時10分、辺りに霧がかかる。12時32分、角十という地名を通過。12時35分、「ブナ北限の里くろまつない」の看板があった。その近くに南部後志環境衛生センターがあった。12時41分、26歩ある白井川橋（白井川）を渡る。13時4分、函館まで132km地点でやっと民家と対面する。13時7分、2km先に道の駅“くろまつない”があった。13時17分、やっと分岐点に到達。白井川という地名で函館131km、長万部24kmとあった。13時25分、黒松内町立白井川小学校前通過。13時31分、熱郭神社（ねつぶ）を遠くからお参りする。13時38分、道の駅内のパン屋（ドワ・ヴェールII）で菓子パンを購入。若い

男性の店員からカッシー館の帽子を観て、色々質問を受ける。名刺を渡しながらか回答する。駅は直ぐ近くにあるとのこと。三角の屋根が印象的な熱郭駅には 14 時到着。



熱郭への路 道の駅



熱郭神社 熱郭駅

14 時 11 分、道道 265 号線「熱郭白井川線」を歩く。鉄道が近くを走っていた。14 時 19 分、熱郭跨線橋を通り、鉄道の右側となる。14 時 34 分、愛犬に声をかけられる。14 時 56 分、大谷地の地名通過。15 時 52 分、道道 9 号線（寿都黒松内線）にぶつかる。15 時 45 分、186 歩ある熱郭橋（熱郭川）を渡る。16 時 1 分、函館 128 km、長万部 21 km、黒松内市街 2 km 地点に到達。16 時 16 分、鉄道を跨り、鉄道の左側を歩く。16 時 22 分、186 歩ある緑橋（朱太川）を渡る。16 時 30 分、愛犬からまた歓迎を受ける。16 時 37 分、大正記念会館があった。また、小間旅館があった。ここを曲がった先に茶色の駅舎をもつ黒松内駅（16 時 40 分）があった。



大正記念会館

駅舎には1名の先客がいた。倶知安方面の下り列車を待っていた。この駅で1時間程待ち、18時12分発の列車で長万部駅に向かう。長万部駅には18時35分到着。



黒松内駅

駅員さんにホテルエクセルインを尋ねる。陸橋を渡るルールである温泉近道から行けるとのことであった。少し迷ったため、ホテルには18時50分頃到着。この辺りには7から8軒の温泉宿があった。ホテルに到着するや否やマスターの金子守氏とウォーキングや鉄道について、ロビー先で15分位語り合う。「今夜鉄道マニアがお見えになる予定。このホテル内の写真の大半が彼からのプレゼント。今夜お見えになったらご紹介します」と。部屋は201号室であった。陸橋を渡った先で、夕食と焼酎・撮みを購入。彼と飲むことを想定して。でも、残念ながら会えず。本日の営業キロは31.1km、万歩計は63,165歩だった。1時間半のロスが生じたが、ダイヤの関係上止むを得ないだろう。



長万部駅

第7節 6日目：6月20日（月） 雨

3時過ぎに起床。5時10分過ぎ、ホテルを出る。早朝のホテルから長万部駅近郊をデジカメに収める。只今現在、雨は降ってはいないが、何れ雨となろう。時々、雷の音が聞こえてきた。本日、5時48分の電車で黒松内を目指す。兄弟の方の不幸で、札幌駅界隈の琴似経由で旭川駅手前の深川まで向かうという、年配の女性の方と世間話をしながら黒松内まで一緒する。6時22分、黒松内駅に到着。ホームの壁には、「北限ブナの木」が張られていた。黒松内からは、雨模様のため傘をさす。商店街があり、コンビニもあった。犬を散歩させている御婦人に、蕨岱（わらびたい）駅への道筋を確認する。



函館行き



東室蘭行き



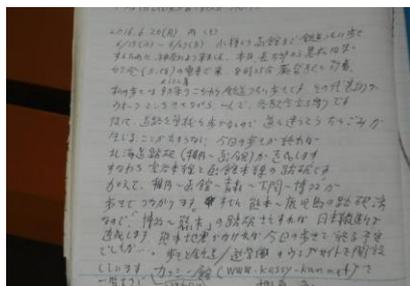
黒松内駅

本日は、リュックを背負わず、距離が短いので助かった。天に感謝あるのみ。6時44分、黒松内小学校があった。6時53分、9号線（寿都黒松内線）に出る。7時7分、黒松内野球場前を通過。この球場で、巨人=横浜、西武=巨人などのイースタンリーグの試合があったとの表示があった。



長万部への路 黒松内野球場

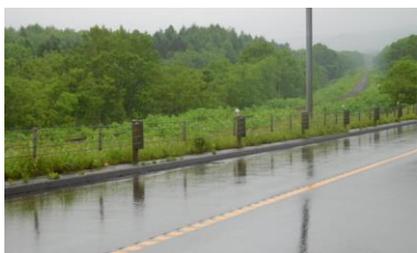
7時23分、鉄道を跨り、JR線の右側となる。7時46分、函館122km、長万部15kmの道路標識を目にする。直ぐ近くに黒松内岳登山口があった。その先に駐車場あり。歩道も終わる。そして、7時54分、鳥マークの黒松内町からカニマークの長万部町となる。北海道は合併が少ないのには驚いた。ホテルのマスターによると、黒松内と長万部との間で合併の話があったらしいが、役所の管轄が異なるので、見送ったとのことであった。8時10分、JR線を跨ぐや否や国道5号線にぶつかる。鉄道の左側を歩く。カッコの鳴き声が聞こえてくる。赤い鳥居が道路に面していた。その対面に蕨岱駅がある。ここの駅舎は昨年よく見かけた列車を改造したものであった。メッセージを残すノートがあると思ったら、予想通りあった。ここで15分要し、感動のメッセージを書かして頂く。昨年の間寒別以来のイベントである。



蕨岱駅 ノートに投稿

8時47分、函館120km、森77km、八雲46kmの道路標識前を通過。ここで初めて、森と八雲の地名と対面する。同時に長万部方面、乗り合いバスが通過して行く。8時57分、函館まで119km地点を通過。9時26分、知来という地名通過。9時30分、知来跨線橋を跨

り、鉄道の右側となる、9時38分、長万部町知来/道路防災記念碑があった、9時54分、寿橋という地名あり。10時7分、双葉という地名で136歩ある二股橋を通過。10時12分、函館115km、森72km、八雲41km地点に到達、二股駅には10時31分到着。



二股駅への路 二俣駅

駅の近くの函館までの表示は114kmとあった。この駅には、備え付けのノートなし。10時58分、美畑通過。函館まで112kmの表示がある。11時13分、牛舎前を通過。11時20分、鉄道を横切り、鉄道の右側となる。車のしぶきが時々かかってくる。11時30分、栗岡の地名通過。雨の影響でメモやデジカメに収める機会が減る。長万部駅には12時53分到着。駅前の蕎麦屋(合田)で遅い昼食とする。ホテルには13時32分到着。本日の営業キロは20km、万歩計は42,949歩だった。ホテルのマスターと一緒に奥様に記念写真を撮ってもらった。距離は短かったが充実した一日であった。夕方は、ホテルから紹介された店(富士)で夕食を摂る。ホテルの奥様が、この店に私が行く旨を伝えてくれたらしいが、会話までできず。



長万部駅への路 長万部駅



エクセルインホテル



ホテル近郊 富士

第8節 7日目：6月21日(火) 曇り／雨

3時半に起床。ホテルを6時過ぎに出る。鉄道の町の景色をデジカメに収めながら、駅に向かう。長万部6時37分の列車で八雲駅を目指す。1両編成の砂原経由で函館行きであった。函館行きには、駒ヶ岳・大沼・小沼の軸にして、砂原経由の他に駒ヶ岳経由があった。車両には「函館—長万部（砂原経由）」とあった。特急が通るのは、駒ヶ岳経由。また国道5号線が走っているのは駒ヶ岳経由。それ故、6月23日のウォーキングで、砂原経由から駒ヶ岳経由に迷った挙句、コースを変更する。この結果、12.8km近道ができ、当初大沼駅の到着から新函館北斗駅まで早く到着できる。加えて、大沼公園も散策できるし、最終日も函館駅に早く到着できたので、家内とも夕食を一緒にとることができる。また、高野さんとの出会いへの機会をうることができた。隣のホームには6時31分発の東室蘭行きの列車（3両編成）があった。



ホテルへの路



長万部駅前 蕎麦屋 (合田)



八雲駅 八雲駅前

列車の車両から道筋を見ながら進む。然別から長万部にかけての山間風景から海岸線風景に一転する。驚ノ巣駅を列車が通過したので、乗り過ごしそうになるが、勘が働きセーフとなる。本日歩きのスタート駅は八雲駅。7時13分に到着。商店街(347本町大通)には近々開催されるお祭り(八雲神社例大祭)の飾りで活気があった。恒例わんぱく相撲大会のチラシもあった。ボランティア活動の一環で年配の方が小学生の登校の交通パトロールの支援をしていた。



八雲山安楽寺 遊楽部橋

7時34分、真宗大谷派八雲山安楽寺前を通過。7時38分、389歩ある遊楽部（ゆうらっぷ）橋（遊楽部川）を渡る。シャケの像が橋の入口出口であった。橋を渡ると立石という地目であった。8時8分、国道5号線に合流する。この辺りで右往左往を20分位する。それは、廃駅とも知らず、鷺ノ巣駅への踏破にこだわったからである。鷺の巣歩道橋辺りから駅のような場所が見えるが、その場所になかなか行けず。500m位引き返し、鷺の巣信号所前停留所（函館バス）界隈にある小道経由でやっと鷺ノ巣駅に8時24分到着。



鷺ノ巣駅

廃駅のため、立ち入り禁止の標識があった。明日のタイミングで八雲駅の駅員さんに問い合わせたところ、廃駅は本年の3月26日のダイヤ改正でなったとのこと。まもなく、駅の面影も撤去とのことであった。8時34分、倶知安107km、長万部28km地点を通過。8時37分、鷺ノ巣跨線橋をわたり鉄道の右側となる。8時40分、函館まで77km地点に達する。8時46分、“酪農の郷八雲町”看板前を通過。8時52分、霧雨模様となり傘をさす。



八雲漁港 山崎駅

9時7分、山崎の地名に到達。9時14分、41歩ある緑雲橋(ヴィタリシイ川)を渡る。9時21分、札幌203km、倶知安104km、長万部25km地点に達する。9時37分、山崎駅に到着。貨物列車がやって来る。駅前にアウルという喫茶店があった。9時51分、函館まで91km地点を通過。9時52分、太平洋沿いに鳥居が見える。雨模様のため太平洋の視界は悪かった。10時4分、電線にとまった鳥をデジカメに収める。10時29分、黒岩という地名に到達。10時32分、大川バス停前通過。10時44分、札幌198km、倶知安100km、長万部20km地点に到達。10時58分、白糠橋近郊で下り列車が通過して行く。11時11分、黒岩跨線橋で鉄道の右側となる。11時20分、白いイメージの黒岩駅に到着。



長万部まで20km 黒岩駅



北豊津駅への路 北豊津駅

特急の上り列車が通過して行く。11時31分、洒落たレストランを見かけたので向かうが、残念ながら準備中であった。11時42分、長万部町豊津に到達。反対側は八雲町黒岩であった。太平洋がよくわかる、98歩ある流古津橋（ろこつ）を渡る。この付近で外国人と対面する。函館まで88km地点であった。12時5分、函館行きバスと対面する。ここから20分位、北豊津駅を通り過ぎた恐れがあるかも知れないと右往左往する。誰かに聞こうにも対面せず。それで、もしかすると通り過ぎた恐れがあるかも知れないと思いつつ前進する。しかし、運よく通り過ぎていなかった。12時45分、北豊津駅に到着。どろんこ道で国道から400m位歩いた先にある。駅舎に到着するや否や作業員の数名がやって来る。国道に出るどろんこ道で追い越して行く。



国縫駅への路



国縫駅

12時53分、国道5号線に戻る。13時35分。左手側に上り列車と対面する。13時53分、110歩ある国縫橋（国縫川）を渡る。国縫駅を500m通り過ぎる、20分位ロスして、14時21分、国縫駅に到着。14時27分、犬を散歩している通行人と対面。14時35分、リカバリー地点に戻る。14時40分、マタツ水産工場前で薄日となる。魚と潮の匂いがする。14時49分、花岡という地名で下り列車と対面。15時25分、積み木風のかに市場アイドルを通過。15時33分、確認のため高橋踏切まで行く。



かに市場アイドル



中ノ沢駅

15時45分。長万部除雪ステーション前を通過。15時45分、中の沢という地名に到達。15時49分、かつて長万部町立中の沢小学校だったお菓子工場前を通過。15時56分、車両を再利用した駅舎をもつ中ノ沢駅には15時56分到着。16時17分、平里で2両編成の上り列車と対面。16時22分、164歩ある紋別橋を渡る。16時40分、長万部かに工場前を通過。16時51分、“いい湯いい花長万部”の標語前でY字型の道路となる。セブンイレブンがあった。17時3分、上り特急列車と対面。ふれあい公園があった。17時8分、長万部町立長万部小学校前を通る。17時20分、長万部駅に到着。駅前に東京理科大の長万部キャンパスがあった。ホテルには17時34分到着。長万部温泉ホテルで入浴後、富士で22時頃まで北洋銀行次長とママさんの3名で人生のアラカルトを語り合う。本日の営業キロは31.2km、万歩計は66,341歩だった。



平里



長万部近郊



長万部駅



第9節 8日目：6月22日（水）曇り／晴れ

4時頃起床。金子夫妻に御礼を言い、ホテルを6時前にチェックアウト。焼酎の残りものを引き取って頂く。6時1分、ホテル近くの家で活躍している盲導犬と対面する。ご主人の朝の散歩のお手伝いをしていた。口に赤いロープを加えて誘導しているのが印象的であった。朝ホテルを出かける際、玄関先で行儀よくお留守番している姿を思い出し、ジーンときた。昨日入浴した長万部温泉ホテルをデジカメに収める。昨日と同じダイヤで長万部（6時37分発）から八雲駅に向かう。長万部駅前には7カ所の温泉ホテルがあった。昨日見かけた女子学生が乗車して来る。連続して同一学生に対面するパターンは、本年3月の伊予西条駅や昨年6月の豊富駅でもあった。同一車両に乗る習性は私と同じ。6時55分、北豊津